

I 課題を設定するために

1 自校の使命を明らかにする

＜研修の位置付け＞

自校は、何のために存在し、どのような役割を果たすべきでしょうか（自校の使命）。自校の使命を考えることは、学校として進む方向のより所を考えることです。児童生徒の成長・発達に対して、自校がどのような方法で、何ができるかを検討し、自校の使命を共有しましょう。

【目的】児童生徒の成長・発達に対する自校の使命を明らかにし、学校として進む方向のより所を考える。

【到達点】児童生徒の成長・発達に対する自校の使命について、全体で共有する。

【準備物】模造紙（**複数の貢献対象から使命を考えるシート**（p. 4）を拡大複写したもの）
付箋紙 マーカーペン

【進め方】（80分）

1 児童生徒の成長・発達に対する自校の使命を考える

- (1) 個人 貢献対象である児童生徒の成長・発達に対して、「何をすることで（貢献方法）、いかに貢献するのか（貢献内容）」を、1枚の付箋紙に1文で一つ書く。付箋紙は一人3枚書く。（例：確かな学力を身に付けさせることで、生涯にわたる自己実現の基礎を培う）
- (2) グループ
- ① 付箋紙を模造紙の上部の余白に貼りながら、一人ずつ書いた内容について説明する。
- ② 付箋紙の内容を分類しながら、自校の使命について、児童生徒の望ましい成長・発達の具体的な姿を想起して協議し、三つにまとめる。
- ③ 協議の結果、まとめた三つの自校の使命を、「児童生徒の成長・発達に対する自校の使命（最初の協議の結果）」の欄に書く。

2 児童生徒以外の貢献対象を考える

- ・ グループ
- ① 児童生徒以外に思い浮かべることができる貢献対象を、できるだけ多く出し合い、1枚の付箋紙につき一つの貢献対象を書く。（例：地域住民）
- ② 出された貢献対象について、自校の状況や児童生徒の置かれた状況などを踏まえ、自校にとって重要度が高いと思われる順を協議して決める。
- ③ 模造紙の「貢献対象」の欄に1番から順に5番まで、貢献対象を書いた付箋紙を貼る。

3 貢献対象が自校に望んでいることと、自校は何ができるのかを考える

- (1) 個人
- ① 一つの貢献対象につき、「貢献対象は、自校に何を望んでいるのか」を、1枚の付箋紙に1文で一つ書く。貢献対象ごとに、付箋紙は一人3枚書く。
- ② 「それに対して、自校は何ができるのか」も①と同様に書く。

(2) グループ ① 貢献対象ごとに、「貢献対象は、自校に何を望んでいるのか」「それ
(15分) に対して、自校は何ができるのか」の欄に付箋紙を貼りながら、一人
ずつ書いた内容を説明する。

② 貢献対象によって、自校に望んでいること、自校にできることがど
のように異なるかに着目して気付いたことを出し合い、「気付いたこ
と」の欄に箇条書きで書く。

4 児童生徒の成長・発達に対する自校の使命（グループとしての結論）を考える

・ グループ ① 「児童生徒の成長・発達に対する自校の使命（最初の協議の結果）」
(10分) と「気付いたこと」を踏まえて、自校の使命について、児童生徒の望
ましい成長・発達の具体的な姿を想起しながら、改めて協議する。

② 協議の結果、まとまった自校の使命を、「児童生徒の成長・発達に対
する自校の使命（グループとしての結論）」の欄に三つ書く。

5 全体で共有する

・ 全体 ① 全てのグループの模造紙を黒板等に貼る。
(20分) ② グループごとに、模造紙に書いた内容を説明する。その際に、最初
の協議の結果とグループとしての結論の相違点及び相違が生じた理由
について説明する。

③ 一つのグループの説明が終わるごとに質疑応答を行う。

④ 全てのグループの説明と質疑応答が終わったら、進行役が、多くの
グループから共通して出された自校の使命を指摘し、多くの教職員が
それらを重要であると考えていることを確認する。

6 個人で振り返る

・ 個人 研修を自己評価し、研修で共有した自校の使命を、今後の教育活動のど
(5分) の場面でどのように果たしていくのか、具体的に書く。

複数の貢献対象から使命を考えるシート

児童生徒の成長・発達に対する自校の使命（最初の協議の結果） ・ ・ ・		
貢献対象	貢献対象は、自校に何を望んでいるのか	それに対して、自校は何ができるのか
児童生徒		
1		
2		
3		
4		
5		
気付いたこと		
児童生徒の成長・発達に対する自校の使命（グループとしての結論） ・ ・ ・		